

対話とワークで学ぶキリスト教学校・人権教育副読本 「新編いばらの冠」の活用と購入を

キリスト教学校の人権教育副読本として「いばらの冠」を刊行します。キリスト教学校の中学校・高等学校で年数時間の人権教育の時間に生徒が参照でき、教室で対話できる教材として編纂しました。

●対話とワークで学ぶ様々な人権課題

部落差別をはじめとする様々な人権課題に対して、本書の基本的なコンセプトは被差別当事者の声に耳を傾け、概説でその背景を学ぶワークを通して生徒自身が対話し考え認識を深める教材を目指しました。長期休暇に当事者の話を読み、感想文を求めたり、休み明けに概説とワークで教室で対話することで認識を深める事ができます。また、本書の前半では人権の基礎をワークを通して対話し考える人権ワークシートの充実を図りました。

●部落差別解消を2つの点に絞って簡潔明瞭に

もう一つの特徴は、偏見は事実によって修正したり差し替えることができること、差別意識や差別行為につながる認識を醸成することを人権教育の課題として明確にした点です。最近アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)やマイクロアグレッション(自覚なき差別)が社会でも取り上げられるようになり、「気づけば変わる」、「気づいて変える」という考え方が主流になっています。特に部落差別については、どのように被差別部落に対する認識を変え、教育の分野でどのように部落差別を具体的になくしていくのか、その教育内容を2点にポイントを焦点化して簡潔明快に示したことも大きな特徴と言えます。

●人権の学びは人類共生の基礎

聖書では人間は神の“かたち”と記されています。人権の毀損は神の“かたち”の毀損であり、人権の回復は神の“かたち”の回復です。

使徒言行録では、世界宣教の最初にユダヤ教の律法の穢規定によって歪められた認識を改めることが



800円 カラー A4判 160頁 発行 いばらの冠刊行会

異邦人伝道の出発点となっています。これは、差別があってはコミュニティや宣教活動は立ち行かず進展せず、人権は牧会や宣教の基礎であることを示しています。

昨今、企業の社会的責任(CSR)を遵守する企業では、人権を経営の基礎とすることは企業価値を高め、生産性を上げることだと言われるようになっています。現代社会はグローバル化の進展に伴い、CSR(企業の社会的責任)やビジネスと人権に基づく法令など、人権が企業の経営や活動の基礎となっています。人権は社会生活や学問研究の基礎なのです。だからこそ、将来を見据えて、若い時代に人権についての対話を経験する意味は大きいのです。人権の社会的価値の高まり、人権課題に気づき取り組むことが当たり前の事として向き合える学びの副読本として、本書がキリスト教学校の生徒に提供されることを願っています。

問い合わせ・注文はメールで nccbdic@gmail.com

新編いばらの冠 もくじ

Contents

- ①はじめに (1)
②もくじ (2)

第1章 ワークと対話で考える人権の基礎

「学ぶ」の先にあるもの 福田紀子..... (3)

第2章 部落問題学習を深める

◆水平社宣言 (31)

①キリスト教と部落問題

「いばらの冠とわたしたち」 栗林輝夫..... (32)

②部落差別解消学習「150年前の皮革職人の生産と現代の私たちの暮らしと文化」

水野松男..... (46)

証言 部落差別と向き合い、部落差別をなくす生き方に学ぶ

①「わたしのなさねばならぬこと」 岡松結子..... (56)

②「私を変えた部落解放運動一子育ての中から」 五十嵐照美..... (64)

③「吾も人の子、人の親」 今井数一..... (74)

◆同和教育と同和行政について (80)

第3章 企業と人権 ~企業が人権に取り組む理由^{わけ} 会社を元気にする人権~

竹内良 (81)

第4章 あらゆる差別をなくすために

①ジェンダーバイアスなんか、ぶっとばせ！ 大嶋果織..... (89)

②想定されていない透明人間のぼく 高校2年生 ユウキ..... (96)

③「障がい者」について考える 片桐健司..... (104)

④ハンセン病への隔離に抗して 藤崎陸安..... (114)

⑤外国人と共に生きる

外国人や移民への偏見や差別をのりこえるために 角田仁..... (124)

⑥在日朝鮮人の歴史と現在 ^{キムキョンホ}金耿昊..... (140)

⑦沖縄と差別 平良愛香..... (149)

◆歴史を学び、平和を創る

日本キリスト教協議会(NCC)教育部 平和教育資料センター..... (159)